

第175回

# 中央委員会決定

---

2019年2月23、24日

新日本婦人の会

**第175回**

# **中央委員会決定**

---

**2019年2月23、24日**

**新日本婦人の会**

第175回中央委員会決定

暮らし、平和、ジェンダー…女性の願いが希望をひらく

選挙で変える！ 安倍政権退陣

今こそ新婦人の飛躍で第29回全国大会の成功を

一、情勢を動かす女性たちと新婦人……

(1) 安倍政権にピリオドを……………4

〈ウソと強権、次つぎ破たん〉……………4

〈女性パワーで変える、選挙がチャンス〉……………5

〈世界の女性・市民と連帯〉……………5

(2) 待たれている新婦人、前進、飛躍で全国大会へ……………6

二、班から選挙・憲法カフェ、運動、仲間づくり大きく……………7

(1) 改憲も消費税10%もノーの審判を……………7

(2) 「班から運動、仲間づくり」で、どの班も生きいき大きく……………9

(3) 若い世代の声と行動が変える！……………9

(4) 仲間づくりの飛躍へ、班の一步前進を援助する委員会に……………11

第29回全国大会めざす仲間づくり親子ばと賞……………14

第29回全国大会の開催について……………15

特別決議 若者を戦場へ動員する改憲も 消費税10%への増税も ストップさせましょう……………16

『月刊女性&運動』の発展的移行について……………18

討論のまとめ……………20

新日本婦人の会は、2月23日、24日の両日、第175回中央委員会を開き、次の決定と討論のまとめ(20ページ)、特別決議(16ページ)を採択しました。第29回全国大会の招集を決め、親子ばと賞についても確認しました。

暮らし、平和、ジェンダー…女性の願いが希望をひらく  
選挙で変える！ 安倍政権退陣  
今こそ新婦人の飛躍で第29回全国大会の成功を

第175回中央委員会決定

## 一、情勢を動かす女性たちと新婦人

この間、熱中症対策として公立小・中学校の全普通教室へのエアコン設置、危険なブロック塀の改修・撤去のために国が1081億円の緊急予算措置をとり、コンビニエンス・ストア大手3社が成人誌撤去を表明するなど、運動の大きな成果が相次ぎました。「新婦人つてすごい」と喜びの声があがり、全国をむすぶ要求実現の会への確信が広がっています。女性差別撤廃条約採択40年にふさわしく、「変えよう、変えられる」「安倍政権退陣で希望をひらく」と4月の統一地方選挙、7月の参議院選挙、11月2、3日の第29回全国大会へ、意欲あふれる活動がすすめられています。

## (1) 安倍政権にピリオドを

〈ウソと強権、次つぎ破たん〉

安倍政権によるウソと強権、モラル崩壊の政治は、いまや破たんしています。アベノミクスの成果を偽装<sup>ぎさう</sup>するために基幹統計の不正までおこない、今年10月からの消費税10%実施は前提から崩れました。沖縄・辺野古新基地の建設は、90%の軟弱地盤で工事不能のうえ、県民投票では県知事選のデニー知事の得票を上回る43万票、72%という圧倒的な反対の民意が示されました。東京電力福島第一原発事故は8年たっても収束せず、首相が先頭ですすめた原発輸出計画はすべて失敗しています。アメリカ言い値の戦闘機「爆買<sup>ばくが</sup>い」や年金積立金15兆円の大損に強い批判の声があがり、「税金は福祉や教育にこそ」「被災者を置き去りにするな」「空前の大もうけの大企業、富裕層が応分の負担を」の願いがうずまいています。女性や若者、高齢者、外国人など安上がりな雇用の拡大、社会保障の連続改悪は貧困をさらに広げ、沿岸漁業の切り捨てや水道の広域・民営化、カジノ、リニア新幹線の強行は新たなたかいを呼び起こしています。

安倍9条改憲NO!3000万署名など世論と運動によって改憲発議の強行を許してはいませんが、首相と自民党は自衛官募集問題を新たに持ち出し、2020年新憲法施行への執念をあらわにしています。日米一体でオスプレイの飛行やイージス・アシオアの配備、基地増強を列島中に広げ、報道や教育などへの介入も強め、ファシズムと軍国主義復活の危険が迫っています。国民主権と相いれない天皇代替<sup>だいが</sup>わりの儀式、さらに、植民地支配など歴史への反省もなく日韓の対立をあり、日口では領土を放棄する「外交」も大問題です。

どの分野でも一致する要求で女性や市民との共同を大きく広げ、一日も早く安倍政権を終わらせましょう。

### 〈女性パワーで変える、選挙がチャンス〉

いま、女性たちは、暮らしや平和への願いをつよめるとともに、閣僚や自民党議員の数かずの人権否定の暴言、性売り物にするメディアや医大生の入試での女性差別に抗議し、人権とジェンダー平等、エルジービティーキューLGBTQ（性的少数者）など多様性を認め合う社会を求め、立ち上がっています。安倍政権こそが、世界男女平等ランキング110位という際立つ日本の遅れをつくっています。6月のILO（国際労働機関）「職場でのあらゆるハラスメントや暴力を禁止する条約」策定に向け、日本でもセクシユアル・ハラスメント禁止の法制定を求める声が広がっています。児童虐待事件にだれもが胸を痛めています。今年はその権利条約採択30年、国連は日本が子どもへの暴力の頻度が高いと指摘し、貧困を含めた政府の対策強化を厳しく勧告しました。

こうしたもとでとりくまれる統一地方選と参院選は、日本の進路を左右する歴史的選挙です。女性の声とパワーで、自民・公明の与党と補完勢力の維新を少数に追い込んで安倍政権を退陣させ、まともな政治をつくるチャンスです。憲法が生かされ、暮らし、平和、ジェンダー平等への女性の願いが実現する社会の希望を、私たちの手づくりだしていきましょう。

### 〈世界の女性・市民と連帯〉

世界中で女性や市民のたたかいが広がっています。2030年をめざして国連が全会一致で

合意した「世界を変革する…持続可能な開発目標」<sup>エスディーズ</sup>SDGsの実施へ、貧困や飢餓<sup>き</sup>の根絶、福祉や教育、ジェンダー平等、人間らしい労働、気候変動対策、平和と公正など、各国で政府や企業、市民団体の連携したとりくみが開始されています。今年から「国連家族農業の10年」(28年)もスタートしました。

朝鮮半島の平和・非核化へ第2回米朝首脳会談が開かれ、核保有国の妨害がつよまるなかでも、核兵器禁止条約は批准21カ国、署名70カ国となり、発効へとすすんでいます。世界中で記録的な異常気象による被害が頻発<sup>ひんぱつ</sup>するなか、国連気候変動枠組み条約第24回締約国会議(COP24)<sup>コッ</sup>は、パリ協定実施へ気温上昇を1.5度に抑えるための行動の引き上げとその仕組みを確認しました。核兵器禁止条約推進のためにも、原発と石炭火力依存からの脱却のためにも、日本での政権の転換<sup>てんげん</sup>が急がれます。

## (2) 待たれている新婦人、前進、飛躍で全国大会へ

新婦人の活動が輝き、「憲法を守りたい」「らいてうがつくった会ですね」「なんでもおしゃべりできる」と各地で入会するなど、どこでも新婦人が待たれています。今こそ、「新婦人が果たしている歴史的な役割に比べて仲間づくりが遅れている」(第28回全国大会決定)に立ち返り、特別の力を注いで、会員20万人、しんぶん30万部に向かって飛躍するときです。

この間、班会を大切に、「五つの目的」や歴史、全国の活動にも学び合い、運動でも組織活動でも新たな活気が生まれています。会の原点である、改憲と軍国主義復活阻止のためにも、平和の担い手である新婦人の飛躍がどうしても必要です。また、国連のSDGsと重なる「五つの目的」をもち、多彩な要求で草の根から行動する新婦人が組織的に前進することは国際的

な連帯と貢献にもなります。

歴史的な第29回全国大会まで8カ月、どの班も生きいき大きくなって、選挙のなかでも、さらに夏、秋へ、班や支部、都道府県本部の仲間づくり目標を必ずやりあげて大会を成功させましょう。

## 二、班から選挙・憲法カフェ、運動、仲間づくり大きく

### (1) 改憲も消費税10%もノーの審判を

2019年度予算要求の「秋の行動」中央総行動（18年10月）、3署名提出集会（19年2月）など国会行動は、エアコンや災害、社会保障、教育、消費税など、自らの要求で議員要請や省庁交渉、リレートークを体験し、政党を見極める行動ともなりました。署名は3種類でとりくみ始めた2010年以来最多の50万を超えました。

安倍9条改憲NO！ 3000万署名目標達成めざし、憲法クイズ紙芝居（中央本部作成）は首相に改憲を語る資格がないこと、自衛隊を書き込む危険性などを学びながらおしゃべりができる活用され、署名の担い手を増やしています。1万軒ピンポン行動などの地域訪問、新春・成人式宣伝や街頭行動で、消費税10%反対署名と合わせ、シール投票などで対話を広げました。平和の2署名は、3000万署名111万人、ヒバクシャ国際署名109万人に到達しています。沖縄・辺野古新基地土砂投入への抗議、県民投票の成功へスタンディングや新聞意見広告、各地で基地強化反対の行動とともに、日米地位協定見直しの自治体決議にもとりくみ



ました。

成人誌撤去を求めたコンビニ店との懇談、申し入れは、20都道府県67支部143班から418店に広がり、さらに撤去させるまでと運動しています。班で防災、介護、医療、公共交通、セクハラ、働き方など切実な要求と憲法を重ねたカフェや学習会をおこない、アンケートなどで要求を聞き、自治体や議会に働きかけました。原発再稼働、水道民営化、「入管法」改定に反対して行動しました。米や種子法などの学習会やカフェが広がり、生産者との交流も産直運動の原点に立ち返ってとりくむ力になっています。これらどの行動にも新婦人しんぶんが活用されています。

○選挙・憲法タイムやカフェで、改憲と消費税増税ストップ、暮らし、社会保障、防災、さらに公共施設の統廃合中止、国保の均等割・平等割廃止など切実な要求で、「住民を守る自治体」「軍事ではなく〇〇を」とおしゃべりし、政党、議員、候補について「これからのエチケット」「ワクワク選挙リーフ」も生かして自由に出し合い、たしかな一票を広げましょう。SDGsの学習や普及も力にしましょう。

○3000万署名目標を班と会員・読者に依拠して達成しましょう。辺野古新基地建設阻止をはじめ、日米軍事強化を許さない行動を各地でつよめましょう。

○原爆パネル展を広げた経験に学び、自治体ぐるみの共同でヒバクシャ国際署名をさらにすすめましょう。20年を迎える女性平和基金を力に、8月の原水爆禁止世界大会（長崎）への代表派遣をつよめ、とりわけ若い世代を意識的に送りましょう。第65回日本母親大会（静岡）を成功させましょう。

○多発する自然災害への抜本的な対策を求め、原発ゼロ基本法の制定や石炭火力の中止、「私

のCO<sup>シイオツ</sup>削減行動」など温暖化防止の行動をつよめましょう。産直運動に参加する会員を広げるうえでも、生産者と連携した学習とカフェ、各種行事にとりくみましょう。

○今年30年を迎える新婦人「春の行動」を、「女性の人権確立、ジェンダー平等めざす」と名称を発展させ、「セクハラ・パワハラは許さない」などおしゃべりし、女性差別撤廃条約・選択議定書の学習や署名、国際女性デー集会の成功など、行動につなげましょう。

○参院選に向け、新婦人の切実な要求が実る豊かな共通政策を、本気の共闘をと野党に働きかけましょう。新婦人は32の1人区の野党統一候補の実現とその勝利へ会をあげてとりくみます。複数区と比例の党派別選挙では要求と政党、議員を語り合うとともに、会員に保障された政党支持と政治活動、後援会活動の自由を大いに力にします。

## (2) 「班から運動、仲間づくり」で、どの班も生きいき大きく

毎月班会・しんぶんタイムが引き続き広がり、こぐみ小組のタイムも努力されています。「沖縄カnpを集めた」「終活カフェをしたい」「サルサ小組をつくりたい」など新婦人しんぶんから学び、また、やる事が一目でわかる班ビンゴなどを使って班会を充実させ、行動に踏み出す班が増えていきます。

3000万署名や「秋の行動」3署名も会員に頼って積み上げ、「バス停にベンチ」「就学援助金を増額させた」など身近な要求も実現しています。各地で新婦人の運動や会の目的に共感して女性たちが入会、この間、要求別小組（サークル）も476誕生し、班からのチラシ配布や小組合団体験会も前進しました。

○どの班も毎月班会・しんぶんタイムをおこなない、小組でもつよめましょう。班ビンゴや班会

レジュメ、〈生きいき大きな班へ 5つのポイント〉などで話し合い、計画を立ててすすめますよう。

○つばやきや要求を大切に、選挙・憲法タイムやカフェを大にとりくみ、3000万署名の班目標をすべての会員と読者のつながりを生かして一日も早く達成しましょう。

○どの班も「仲間づくりって?」「お誘いしたい人は?」と話し合い、目標と計画を持ち、あらゆるとりくみのなかで、お誘い行動で、○○カフェと新小組づくりで、班のチラシや小組合同体験会で、仲間を迎えましょう。しんぶんの配達・集金の現状や心配なことを出し合い、みんなで相談しましょう。

○会の歴史や活動を学んでおしゃべりしましょう。『会のあらまし』とDVD『新婦人のあゆみ』で新入会員を歓迎し、会員と手を離さない努力をさらにつよめましょう。

○職場班は、忙しいなかでも連絡し合い、班会やカフェ、食事会にゲストも誘い、職場の現状や「8時間働けば普通に暮らせる社会に」など、おしゃべりし、「働き方」署名や仲間づくりにとりくみましょう。

### (3) 若い世代の声と行動が変わる!

予算要求の2回の国会行動に「戦闘機の爆買いよりも教育予算を」と若い会員が1000人を超えて参加し、直接体験しました。多くが初参加で、議員要請や集会では、非正規雇用の実態や重い教育費負担など自らの「困った」を声にし、共感を広げました。エアコンの確実な設置へいつせいに要請するなど、各地でも直接体験がとりくまれ、成果につなげました。教職員も招いた学校カフェや、学校訪問が各地で広がり、シングルや働く女性の「ちよいのみ」などが、

仕事の大変さや悩みなど何でも言える場として喜ばれています。リニューアルしたホームページも好評です。

○自らの願いを大事に、幼児教育・保育の「無償化」による公立保育所つぶしを許さず、増設と処遇改善を、妊産婦と子ども医療費無料制度の創設、助成の拡充、学校給食の無償化、教職員の増員、教育予算の大幅増額などを求め、地方選、参院選でも、若い世代が「政治に声を上げる」「変えられる」ことを直接体験していきましょう。

○若い世代の「見える化」(名簿)に、会員の2世3世、つながりのある働く女性、元リズム会員やリズムっ子も入れて、班や支部でランチ会や夕食会、学校カフェ、「同窓会」など、つながりやすい集まりで居場所をつくりましょう。

○ミニ冊子「新婦人のたのしみかた」やアンケートも活用し、班会やチーム、カフェなどに誘い、リズム後も新婦人につながりましょう。

○若い世代の交流会を班活動交流会の場などで、工夫して開きましょう。「つどう☆つながる次世代交流会」(6月2日大阪会場、9日東京会場)に向けて、若い世代の委員やこれから委員に迎えたい会員など、支部から送り出しましょう。委員会は次世代会議を開き、経験や悩みを率直に出し合い、運動でも仲間づくりでも若い世代のアイデアを取り入れ、並走をつよめましょう。

○運動・仲間づくりの力となるSNSをさらに活用しましょう。

#### (4) 仲間づくりの飛躍へ、班の一步前進を援助する委員会に

どの委員会も班会・しんぶんタイム100%にこだわり、各地で班会開催100%の支部が

生まれ、未開催の班にも足を運んで援助するなどの努力が広がっています。

「班から仲間づくり」、毎月増勢、前進・飛躍をめざし、多くの委員会がチラシ援助金で班を励まし、「チラシを100班から」と目標をもったり、小組づくり体験会を開くなど、18年は2年前よりチラシ配布の班数と枚数、合同体験会開催の班数と回数ともに増えました。2018レッドアクション賞で班を励ましました。「方針をどの班もとりにくめるよう具体化し、最後まで追いかける」努力を前進県から学び、選挙と大会の年に足早く行動しています。

班活動や委員会活動の『手引き』、『月刊女性&運動』の学習、新婦人学校やブロック別班活動交流会が班や支部の力となっています。

○毎月班会・しんぶんタイム100%を据え、小組でのしんぶんタイムの目標をもって、どの班も〈5つのポイント〉に挑戦できるよう、また「食べて学んで美しく」も意識して、班ごとの援助をつよめましょう。そのさい、班会用グッズや『手引き』を活用しましょう。

○この間の「班から」の努力と情勢を切りひらく新婦人に確信をもって、選挙のなかでも仲間づくりの前進へ、一日も早く前大会時現勢を突破し、29大会目標を達成、20万人30万部へと向かっていきましょう。毎月の「19〜25日全国連帯仲間づくり期間」を大事に、「班から仲間づくりの増やし手と行動量を広げてこそ目標達成できる」と、すべての委員が班や会員とともに行動の先頭に立ちましょう。無料宣伝紙も大いに活用します。

○チラシを、①新年から3月、②地方選終了後から6月、③9、10月に広く配布し、小組づくりと合同体験会を援助しましょう。チラシにこの間の運動の成果を載せ、合同体験会も新婦人が見える工夫やみんなでゲストを誘い合うなど、仲間づくりにつなげましょう。小組づくり講座や発表&体験など楽しくとりくみ、親子ばと賞（※）も位置づけましょう。

○班や支部での配達・集金活動の現状や困っていることを出し合い、改善策をとともに探ってみましょう。

○委員会に複数の若い世代や退職者など新しい人を迎え、集団を大きくしましょう。都道府県本部常任委員対象の活動交流会議（5月11日東京・大阪会場、18日福岡会場）の成功へ、仲間づくりの前進と豊かな活動を持ち寄ります。都道府県本部や支部での班活動交流会、新婦人ミニ講座や支部での新婦人学校なども開きましょう。

(※) 第29回全国大会めざす仲間づくり親子ばと賞

【会員】

1、平和の2署名を各5人分以上あつめ、会員を増やした会員

【班】

2、毎月、班会・しんぶんタイムをしている班

3、チラシなどで知らせ、カフェを開くとともに、新しい要求別小组をつくった班

4、小组合同体験会を開いて、会員を増やした班

5、仲間づくりの2019年目標をもち、達成した班

6、会員が一ヶタから二ヶタになった班または会員を倍加した班

【若い世代】

7、カフェやチーム、「夕食会」、小组など若い世代の集まる場を定期化し、若い世代の会員3人以上を迎えた班、または支部

【支部、都道府県本部】

8、会員または機関紙の目標を達成した支部、都道府県本部

【特別賞】

新婦人のとりくみをSNSで発信した班、または支部（「新婦人」が入っていること、個人のアカウントも可）

個人のアカウントも可）

\*期間は2019年1月1日～11月3日まで。2は、19年の途中からでも毎月連続して開催していること。1と特別賞以外の表彰項目は、すべて第28回全国大会時現勢（会員数としんぶん部数ともに）を突破していること。

## 第29回全国大会の開催について

第29回全国大会の招集について 規約第六条（二）にもとづき、新日本婦人の会第29回全国大会を2019年11月2、3日の両日、東京都内で開催します。



## 特別決議

若者を戦場へ動員する改憲も、消費税10%への増税も  
ストoppさせましょう

安倍首相は、年明けの通常国会の施政方針演説でも、自民党大会でも、改めて改憲への執念を示し、その口実として、自衛官募集への自治体の「協力拒否」を新たに持ち出しました。戦争法（安保法制）施行後の自衛官の応募減少に危機感をあらわにし、強制的に若者の名簿を提出させ、戦場へと動員しようというのです。「憲法に自衛隊を書き込んでも全く変わらない」どころか、徴兵制にいきつく危険性が見えてきます。

自衛隊法施行令は、自治体の名簿提供義務は規定しておらず、本人の同意がない個人情報提供は、憲法13条のプライバシー権を侵害するものです。しかも、首相の主張は、改憲運動をすすめる極右の日本会議系団体の言い分をそっくりまねています。こうした勢力と一体にする改憲と軍国主義復活を阻止するためにも、安倍9条改憲NO！3000万署名の目標を一日も早く達成しましょう。

安倍政権が実施をねらう今年10月からの消費税10%への増税は、その根拠がこの間の国会論戦のなかで崩れました。首相官邸の関与が大問題になっている「毎月勤労統計」の不正で、「今世紀最高水準の賃上げ」という発表がウソであることが明らかになりました。実際には、実質賃金は2014年の消費税増税前に比べ、10万円以上も落ち込み、家計の実質消費支出も6年間で約25万円減少しています。首相は雇用者増を強調しますが、増えたのは女性や高齢者、若

者の低賃金の非正規ばかりです。こんな経済状況と貧困・格差がすむなかでの消費税増税など、とんでもありません。いま、この一点での幅広い共同が広がっています。

さらに、政府が「増税対策」として打ち出したキャッシュレス決済での「ポイント還元」や「複数税率」など、業者にも消費者にも大混乱をもたらすだけで、多くの反対の声が上がっています。増税するなら、大もうけをしている富裕層と大企業にこそ応分の負担を求めるべきです。

いまこそ「改憲も増税も許さない」運動と選挙で、安倍政権退陣へと追い込んでいきましょう。

2019年2月24日

新日本婦人の会第175回中央委員会

## 『月刊女性&運動』の発展的移行について

2019年2月24日 新日本婦人の会第175回中央委員会

『月刊女性&運動』は、前身の『新婦人情報』が「国内外の実態や運動の現状、新婦人の要求実現運動や組織活動などの経験、教訓を調査、研究した論文などを収録する調査研究誌」として1983年に創刊され95年に現行の名称に改題し、通巻438号となります。

発刊以来36年、新婦人の運動、若い世代や班、委員会活動をすすめるうえで必要な情報、秋の行動の成果一覧、ジェンダー、国連に関わる分野で新婦人が発表したもの、学習材料などが活用されてきました。

同時に、年金世代や若い世代の委員にとって購読料の負担感が増すなかで、2015年7月号より、ページ数を減らし年間購読料を引き下げるなどの措置をとってきました。しかし、昨年は運送料が値上げとなり、印刷会社からは情報メディアの電子化による構造的な需要減少、原燃料価格の高騰などを背景に、今年4月からの用紙代値上げが提示されています。しかも、中央本部が独自体制をとることができず、現状の発行を維持することが困難となっています。

こうしたもとで、新婦人の活動前進の力にする情報を月刊誌として有料で提供するのではなく、来年1月以降、名称は『女性&運動』として、新婦人の委員に無料で届ける冊子へと発展的に移行する基本方向を確認し、詳細については次回第176回中央委員会で検討し決めることにしました。

『月刊女性&運動』読者のみなさんには、現行の発行を2019年12月号までとすることを含め、同4月号でお知らせします。



## 討論のまとめ

事務局長 高杉しゅん

第175回中央委員会は、中央委員141人中1日目126人、2日目127人、オブザーバー5人が出席しました。59人が発言し、エアコン設置、コンビニの成人誌撤去の2つの画期的な成果を確信に、「新婦人のすごいが満載の議案」「声を上げれば変えられる」と、意欲あふれる討論となりました。

12年ぶりに統一地方選挙と参議院選挙、そして新婦人第29回全国大会が開かれる今年、昨年12月の都道府県本部長・事務局長会議の提起を受け、多くが「熱いうちに」と年末や年明け早々に会議をもち、出足早い具体化と行動のなかで、この中央委員会を迎えました。

### 自衛官募集や軍事強化を告発、沖縄のようにたたかおう

情勢では、新基地建設・辺野古埋め立ての賛否を問う県民投票を「安倍政権とのたたかい」と位置づけた沖縄のとりくみをはじめ、自衛官募集や軍事・基地強化を告発する発言が相次ぎました。「子どものポスター」の後から自衛官募集を入れて使っていることに、抗議の電話作戦で行動」、また、「自衛隊演習場での日米共同訓練強化と初のオスプレイ導入」「自衛隊基地の滑走路を延長し、米軍用の弾薬庫や司令部づくりなどまさに米軍基地化」「突然のオスプレイ飛行訓練は超低空飛行、夜間飛行などやりたい放題」に、抗議集会や要請行動などが住民ぐるみで広がっています。こうした強権政治に対し、「勝つまであきらめない沖縄のようにたたか

いたい」との発言にもあったように、全国が連帯し、運動を強めています。

### 選挙で変えようとおしゃべり、署名達成の力に

各地で県政や道政がわかるクイズ方式のリーフや紙芝居を独自に作成し、選挙・憲法タイムやカフェのとりくみも始まり、中央委員会に向けて3000万署名の目標を達成した。あとわずかという県本部も続いています。「平和の2署名両目標を達成。県政紙芝居でおしゃべりするなか、結論は安倍首相、県知事を選挙でやめさせる！この怒りを行動の力にした」「班、小組で憲法カフェ1000回目標のとりくみが、県政紙芝居の推進力になっている」「各支部、班が目標をもって、あらゆる行動で、広げ手を増やすかつてないとりくみで目標達成」など、どこでも学習とおしゃべりを力に行動を強めています。

国や自治体に向けた要求運動、身近なつぶやきが選挙の争点となり、それらが国の悪政と結びついていることが、積極的に討論されました。「学校、保育園の統廃合などが目白押し。安倍政権がすすめる地方自治こわしが住民との矛盾を広げている」「万博・カジノより全国一遅れた子どもの医療費助成を」「ムダな大型開発より防災・減災対策こそ」「原発再稼働反対の住民の意思が反映される県議会を」など、「選挙で変えよう、変えられる」との思いが次つぎ語られました。また、多様な要求でも、「班プランシートに身近な要求を書き込む欄をつくったことで、ウオッチングし自治体への運動が広がっている」「恒例行事だけにせず、安心安全のみそづくりは新婦人でこそと、会員に」などの経験や、今年30年を迎える新婦人「春の行動」は、「性的同意とは」の学習や「新聞社社長のセクハラに女性団体とともに抗議」「非正規で働く女性のアンケートで、改善へ行動」など、各地でとりくみが始まっています。

## 若い世代が自らの願いで行動、直接体験さらに

若い世代の国会行動をはじめ、直接体験が確信になっているとの各地の発言にも共感しました。「声に出して行動すること、選挙が本当に大事」「直接要請できる新婦人はすごい。署名が動かしている」など、参加者の共通の実感です。地元に戻って「何も変わらないと思っっている人に伝えたい」「市民と野党の共闘で安倍政権を倒したい」など、生きいきと報告し、要求でカフェにとりくむなど次の行動にもつながっています。

また、若い世代自身の「困った」の声から、市が就学援助の世帯収入の目安を公表せず、認定者が減っている実態を突き止め、教育委員会に交渉し、3月議会に請願を出す運動へとつながった経験は重要です。

県本部主催の次世代交流会が開かれ、「まずはそれぞれの地域で相談会をと、4ブロックに分け、どうやって若い世代とつながるか、本音で議論をしている」などの経験にも学び合いました。昨年、東西で開催した若い世代の交流会が力になっていることも共通です。シングルや働く女性、リズム育ちのリズムっ子など対象を広げて、6月の交流会に、若い世代の委員、これから委員に迎えたい会員など支部から送り出そうとのとりくみも始まっています。

## 班から担い手広げる委員会の援助

班会・しんぶんタイム100%への前進が、運動でも仲間づくりでも、担い手を広げ、組織的前進の条件をつくっていることも共有しました。未開催の班への援助をつよめ、「小组だけでなく思いっきりおしゃべりがしたい」との新会員の言葉で3年ぶりに班会を開き毎月するこ

とになった班、やることが一目でみえる班ビンゴに初めてとりくんだ班、さらにワンアップビンゴや女性平和基金を位置づけるなどバージョンアップし、班会充実のための工夫が意欲につながっています。小組でもしんぶんタイムにとりくみ、「しんぶん」で話題が広がり楽しい」「世の中のことがよくわかるようになった」など歓迎されています。また、委員会が体験会と新小組づくり、チラシを班から大規模にまこうとさまざまな援助をしていることも特徴です。「昨年は全県で6万枚、今年は15万枚の目標に」「チラシを配ってこそ出会いがある。班から女性有権者規模でダイナミックに」「チラシ目標を倍加し、運動の成果も入れて全市にまく計画」や、「まずは委員会が体験しよう」「健康系小組の講座をひらいて」など、新小組づくりを意識的に位置づけています。こうしたなかで、小組体験会で入会した女性が「今までとは全く違った世界に生きているよう。やること聞くこと初めてのことばかり。コーラス、ストレッチ、笑いヨガ、班会も楽しい、新婦人は心のよりどころ」と発言したことは、新婦人ならではですね。

委員会が班の一步前進へ援助をつよめるなか、「一番大きな支部が会員の前大会時を突破し、機関紙もあと3部」「現勢回復まで大きな支部が例年に比べてマイナスが少なく、早くやり上げて勢いをつけたい」「あらゆるとりくみの中の仲間づくりが今年のテーマ。選挙が仲間づくりのチャンス。体験会の中でも県政クイズをやるう」「班会開催を力に行動をつよめ前進している被災地の支部が、新婦人があってよかったと、存在意義を深めている」などの経験にも学びました。引き続き、新婦人ミニ講座、班活動交流会が力になっています。

平和と要求実現、ジェンダー平等へ、女性・市民と野党の共闘をつよめ、選挙で安倍政権を退陣に追い込み、秋の全国大会へ、仲間づくりの前進・飛躍を必ずと、力を合わせてとりくんでいきたいと思います。



**新日本婦人の会  
第175回中央委員会決定**

---

2019年3月20日発行  
**発行：新日本婦人の会**  
〒112-0002 東京都文京区小石川5-10-20  
TEL03-3814-9141 FAX03-3814-9441  
頒価 80円



新日本婦人の会  
第175回中央委員会決定  
2019年3月20日発行  
頒価 80円